

|       |    |       |         |      |
|-------|----|-------|---------|------|
| 02    | 一宮 | 三条小学校 | シバタ アカネ |      |
|       |    |       | 氏名      | 柴田 茜 |
| 分科会番号 |    | 7     | 分科会名    | 美術教育 |

研究題目 「ひとりひとりの心と響きあう図工教育」～つくりだす喜びを実感できる授業をめざして～

## 研究のねらい

図画工作の学習では、形や色の面白さに気づき、試行錯誤しながら表現を工夫することが重要である。特に立体作品の製作では、製作をしながらより魅力的な形につくり変えたり、細部の表現にまでこだわって模様をつけたりするなど、様々な工夫ができる。こうした試行錯誤の積み重ねが表現の幅を広げ、思いを自在に表す力につながっていく。

工夫を重ねるためには、造形的な見方・考え方を身に付け、形や色への理解を深める必要がある。これが身についていれば、感覚だけに頼らず「どのように伝えたいか」という根拠や意図をもって製作できるため、工夫すべきポイントが明確になり、短時間で効果的に試行錯誤できるからである。しかし実際には、自力でこの見方・考え方を深められる児童はごくわずかであり、工夫の仕方が分からず「何となくうまくいかない」と行き詰まる姿や、完成を優先して作業のみで終わってしまう姿が多く見られる。

「光の形」は、スポンジを組み合わせて形をつくり、スポンジを通した光の美しさを追求する題材である。短時間でスポンジの組み合わせや光り方を試すことができる。また、着色をする必要がないため、形と光という2つの要素にしばって創作することができるのも良い点である。これらのことから、「光の形」の製作を通して、試行錯誤をしながら、造形的な見方・考え方を生かした作品製作ができる児童を育てることができると考え、本研究に取り組んだ。

## 研究の仮説

製作過程で、形や光の様子を試すことができる時間や場を設定し、形の特徴を取り入れやすいテーマを示すことで、試行錯誤をしながら、造形的な見方・考え方を生かした作品製作ができる児童が育つだろう。

【手立て1】 形の特徴を生かした製作ができるように学習過程を工夫する。・・・(1)

【手立て2】 形と光を試すことができる場を設定する。・・・(2)

【手立て3】 様々な表現技法を身に付けさせる。・・・(3)

【手立て4】 認め合う場を取り入れる。・・・(4)

## 実践

(1) 手立て1の実践 形の特徴を生かした製作ができるように学習過程を工夫する。

### ① 3つのテーマの設定

「光の形」というタイトルだけでは、どんな作品をつくってよいかわからない児童が多いと推測し、「光のタワーを建てよう」というめあてを設定した。一宮市のシンボルである138タワーのイルミネーションの写真を提示し、タワーのイメージを膨らませた。その状態から、さらに「ノリノリ! パリピエリア」「最先端サイバーシティ」「ほっと落ち着く 自然エリア」という3つのテーマ(資料1)とエリアマップ

（資料3）を提示した。それぞれのエリアにはどんな人が住んでいそうか、どんなものがありそうかなどを話し合った（資料3）。3つのテーマの中から1つを選び、イメージに合うタワーをつくるということを児童に伝えた。

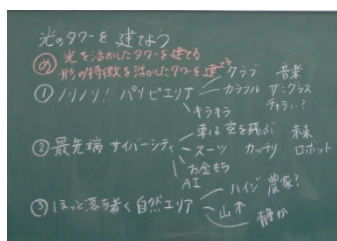
さらにイメージを膨らませるために、教師の参考作品を2つ提示した（資料4）。児童と同じテーマにすると、イメージが凝り固まってしまう恐れがあるので、参考作品は別のテーマ（「キラキラキュート きれいエリア」）に合わせて製作した。



【資料1：3つのテーマ】



【資料2：エリアマップ】



【資料3：話し合い内容の板書】



【資料4：教師の参考作品】

## ② 形の特徴をとらえるためのクイズ

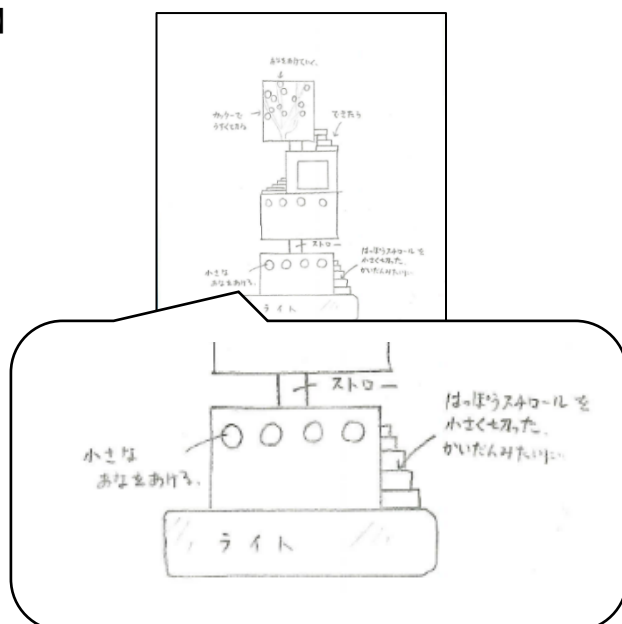
形の特徴やイメージをつかむために、「どっちだろう？クイズ（資料5）」を行った。丸い形と四角い形の特徴や、配置を変えるとどう感じるかなどを考えさせ、自分が選んだテーマのイメージを表現するためには、どのような形をどのように配置するとよいのかを考えた。



【資料5：どっちだろう？クイズ】

## ③ アイデアスケッチをする

考えたことをもとに、アイデアスケッチをした。1人で考える時間の後に、グループの友達と相談する時間を設けた。「このタワー、どのテーマだと思う?」と、アイデアスケッチが自分の選んだテーマに合っているかどうかを友達に聞いて確かめる児童もいた。自分のアイデアを友達に説明することで、より具体的にイメージをもたせることができた。この段階で、簡単な技法（カッターで削る、ストローで穴をあけるなど）を紹介し、つくり方をより具体的に考え、言葉でも書き込むように指示した（資料8）。



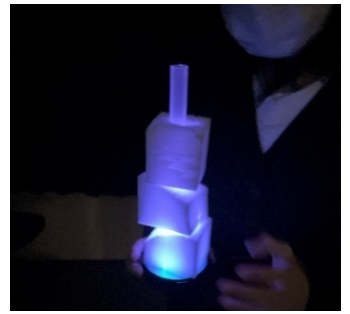
【資料8：つくり方を言葉で書きこんだスケッチ】

## (2) 手立て2の実践 形と光を試すことができる場を設定する。

### ① 暗室でのお試しタイム

カッターを使うため、製作環境はできるだけ明るく、安全な状態にしておきたい。また、教室での製作では、光り方の様子が分かるレベルの暗闇にすることは難しい。そのため、製作のための教室と光の様子を試すための教室（暗室）の2部屋を用意した。暗室には、暗幕がある教室を選び、光り方がよくわかるようにした。

2つの教室は隣り合っているため、いつでも試しに行くことができるが、製作に夢中になって試しに行かない児童も多かった。そのため、時間を区切ってグループごとに試しに行く時間を設けた（資料9）。



【資料9：暗室でのお試しタイムの様子】

### ② 段ボールを使ったお試し

つくりながら光り方を試すために、1人1つ段ボールを用意した（資料10）。



【資料10：段ボールを使ったお試しの様子】

## (3) 手立て3の実践 様々な表現技法を身に付けさせる。

### ① スキルリスト

基本的な技法を紹介するために、実践している様子を動画にとって児童に見せた。製作しながら技法を確認できるようにするため、Padletを活用した（資料11）。一番左側に「スキルリスト」という欄を作り（資料12）、一覧で実践動画とポイントを説明した文章を見られるようにした。



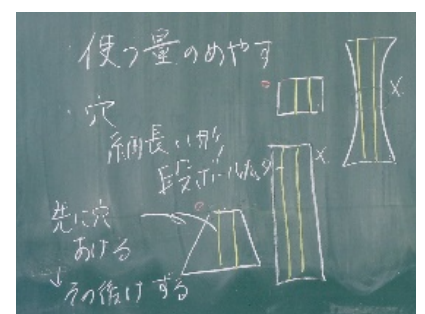
【資料11：Padletのボード】



【資料12：スキルリスト】

### ② ポイントの板書

製作する上での注意点を説明し、板書に残した（資料13）。材料が限られており、大きく壊れてしまうとやり直すことができないため、製作の順序や必要な材料の目安を考えるように指導した。



【資料13：注意点の板書】

### ③ 工夫ポイントを伝え合う

Padlet を使って、児童自身が製作中に面白いと思ったりうまくいったと思ったりした表現を共有できるようにした。不安定な形を立たせるための工夫や、切込みを入れて模様をつけたり、紙やすりでスポンジを削るとツルツルになったりすることが共有されていた（資料 14）。その投稿を見て、表現をまねする児童や投稿した児童にやり方を聞きに行く児童もいた。



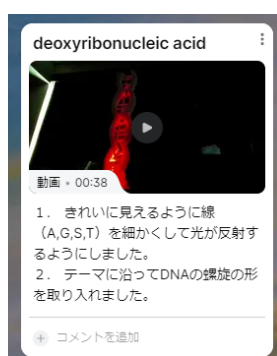
【資料 14：工夫ポイントを伝え合う様子】

## （4）手立て4の実践 認め合う場を取り入れる。

### ① 鑑賞会

テーマごとにエリア分けをして作品を並べ、鑑賞会を行った。鑑賞する上で、「光の美しさはどうか」「テーマに合っているか」という2つの視点を与えた。一通り作品を鑑賞した後、Padlet を使って自分の作品の工夫ポイントについてまとめさせた（資料 15）。

その後、友達の作品でよいと思った作品を選び、まとめる活動を取り入れた。Canva を使い、1 枚のレポートにまとめるように指示を出した（資料 16）。



【資料 15：自分の作品の工夫ポイント】



【資料 16：Canva を使った鑑賞のまとめ】

## 研究の成果

### （1）手立て1に対する成果 形の特徴を生かした製作ができるように学習過程を工夫する。

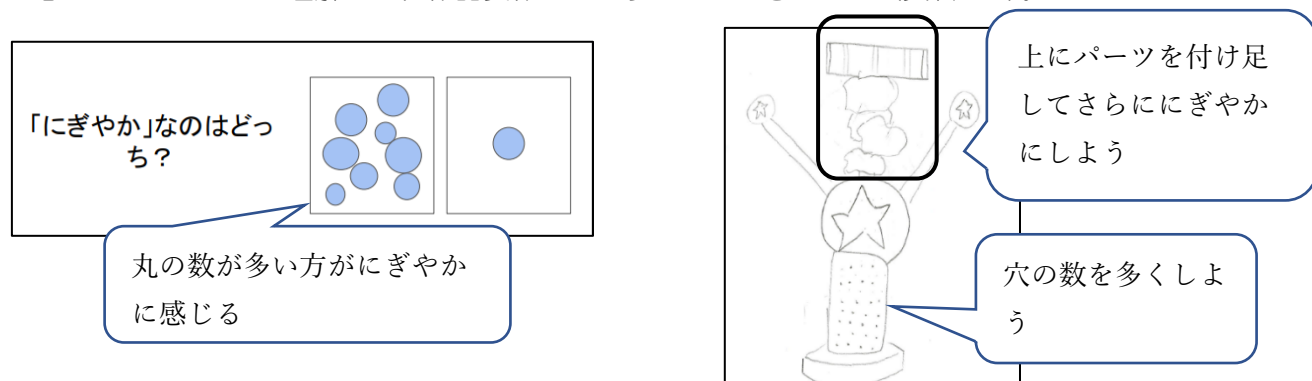
#### ① 3つのテーマの設定

スポンジを使っでの表現は、粘土での表現とは違い、具体的な形を細かく表現することは難しい。また、子どもたちは、抽象的な形の構成をした経験が乏しく、作品の完成像をイメージしにくい。そこで、テーマを設けることにより、完成像をイメージしやすくした。これにより、アイデアスケッチに取り組む際、全くイメージが湧かないという児童はほとんどいなかった。

#### ② 形の特徴をとらえるためのクイズ

児童 A は、「ノリノリ！ パリピエリア」を選択して作品を製作した。スケッチを始めた当初は、星のパーツより上の部分がなかった。しかし、「もっとにぎやかな感じにしたい」と言って、上の部分を付け足した。さらに、土台のパーツに穴をあけてミラーボールのように見えるよう工夫していた。穴の数にもこだわり、「たくさん穴をあけてよりにぎやかにしたい」と話していた。

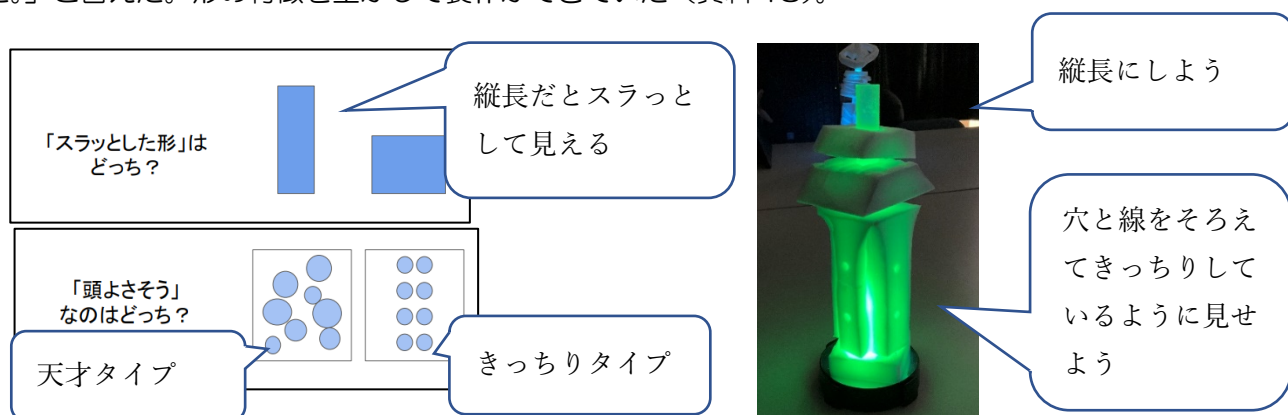
「どっちだろう？クイズ」の『にぎやか』なのはどっち？」という質問で、丸の数が多い方がにぎやかに感じるということを理解して、作品製作に生かすことができていた（資料 17）。



【資料 17：「どっちだろう？クイズ」と児童 A のアイデアスケッチ】

児童 B は、「最先端サイバーシティ」を選択して作品を製作した。この児童も、クイズで学んだ形の特徴を利用して製作を行った。完成後の発表会で、『最先端サイバーシティ』は『カッコよくて頭がいい』というイメージだったので、縦長で模様がそろった感じにした。」と話していた。

『頭がよさそう』なのはどっち？」というクイズをしたときに、学級内で意見が割れた。児童 B は、「左の方が天才タイプで、右の方がきっちりタイプに見える。」と話していた。発表会后に、児童 B に「なぜ模様がそろえたのか？」と聞くと、「サイバーシティはパソコンのイメージがあるから、きっちりしていると思った。」と答えた。形の特徴を生かして製作ができていた（資料 18）。

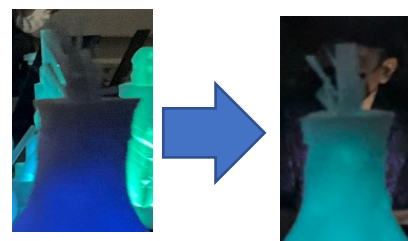


【資料 18：「どっちだろう？クイズ」と児童 B の作品】

## (2) 手立て 2 に対する成果 形と光を試すことができる場を設定する。

### ① 暗室でのお試しタイム

児童 C は、ラムネの瓶のような形を目指して製作していた。光を一番上まで届けたかったが、試してみると上まで届いておらず、何度も明るい部屋と暗い部屋を行き来し、光の様子を確かめる姿が見られた（資料 19）。



【資料 19：光の様子を試して変化した作品】

### ② 段ボールを使ったお試し

1 人 1 つ用意したことにより、待たずに試すことができた。暗室で光らせるよりも光は弱いですが、すぐに製作に移れるので、何度もイメージを確かめながら試すことができた（資料 20）。



【資料 20：段ボールで試しながら製作する様子】

### (3) 手立て3に対する成果 様々な表現技法を身に付けさせる。

#### ① スキルリスト

児童自身が手元でやり方を確認することができ、どんどん製作に取り組むことができた（資料 21）。基本的な技法の指導をする頻度が減り、悩んでいる児童や困っている児童の指導に多くの時間を割くことができた。



【資料 21：スキルリストを見ながら製作する様子】

#### ② 工夫ポイントを伝え合うことについて

児童 D は、作品全体に模様をつけたいと考えていたが、どのようにすればよいかわからず悩んでいた。Padlet で、「もよう」という投稿をしている児童 E がいることに気付き（資料 22）、どのように模様を付けたのかを聞きに行った。やり方を教えてもらい、児童 E の投稿した写真を見ながら製作することで、自分の作品に取り入れることができた（資料 23）。



【資料 22：児童 E の作品】



【資料 23：児童 D の作品と製作の様子】



### (4) 手立て4に対する成果 認め合う場を取り入れる。

#### ① 鑑賞会

テーマごとにエリア分けをして鑑賞をしたため、同じテーマの作品がまとまっていた。そのため、どんな工夫がされているのかを比べやすかった。児童は、「この作品が一番サイバーシティっぽい」「模様がたくさん入っていてすごい」「たくさんパーツが付いているほうがパリピらしい」「ストローがアンテナみたい」などと反応していた。

視点を与えることにより、作品の良さを具体的に言語化することができた。また、タブレットを活用することにより、暗い部屋でもスムーズにまとめることができた（資料 24）。

|  |                                                                                                                                                                                              |
|--|----------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------|
|  | <p><b>ノリノリ! パリピ エリア</b></p> <p>良いと思った理由を書く</p> <p>タワーに線が入っていた。<br/>曲線にスポンジが切られていてよかった。<br/>テーマとあっていと思った。いろんな形を乗せていることで賑やかになっていた。<br/>線から光が漏れていてきれいだった。<br/>うえの丸い? ところからもひかりがもれていてきれいだった。</p> |
|  | <p><b>最先端サイバーシティ</b></p> <p>良いと思った理由を書く</p> <p>一番上にあるものの形が最先端っぽいし、螺旋もきれいにできていて、全体的に最先端が感じられた。<br/>下から上まで、しっかり光が届いているけど、少しグラデーションになっているのもすごくきれい。</p>                                          |
|  | <p><b>ほっと落ち着く自然 エリア</b></p> <p>良いと思った理由を書く</p> <p>上のクラゲまでしっかり光が届いてきれい。<br/>ところどころ光が漏れていてとてもきれい。<br/>全体から、落ち着く感じが伝わってくる。<br/>また、光り方が宝石みたいで、自然っぽさが出ている。</p>                                    |

【資料 24：鑑賞のまとめ】

#### 今後の課題

- ・暗室を用意したが、自分から試しに行く児童は少なかった。お試タイムを作り、必ず試しに行くよう促してはいたが、何度も試した児童の作品と比べると、作品に光が通っていない部分が多かった。
- ・光の通り方に目を配れていない児童がいた。横長の形では光が通りにくいことを見せて伝えるべきだった。
- ・作品が崩れてしまって立たない児童もあり、立たせ方の指導をする必要があった。
- ・スポンジで作ることが難しい具体的な形を求める児童があり、思い通りの形にならなかった。
- ・本研究の手立てによって、児童が意欲的に製作に向かうことができた。今後も、子どもたちが形や色、材料の特徴を捉え、造形的な創造活動の喜びを味わう態度をさらに引き出す手立てを考えていきたい。